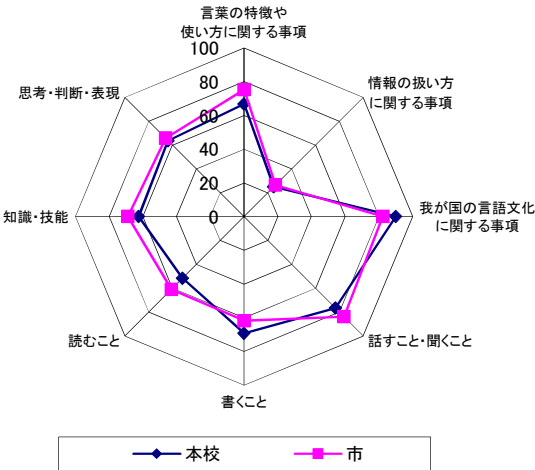


宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.8	75.3	77.1
	情報の扱い方にに関する事項	25.0	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	90.0	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	76.7	83.9	84.2
	書くこと	69.2	61.7	64.5
	読むこと	51.7	60.9	61.0
観点別	知識・技能	62.5	68.8	70.3
	思考・判断・表現	63.7	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

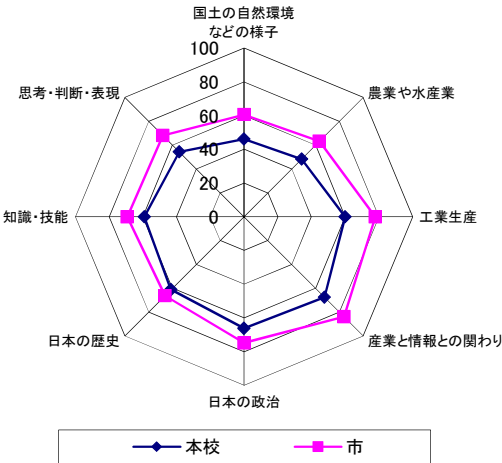
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○漢字の読みの正答率は高かった。 ○段落に分けて話したり書いたりする学習を積み重ねたため、意見文を2段落構成で書くことができていた。 ●漢字の書きが未定着である。 ●形が似ている漢字の読み書きに誤りが見られた。 ●一つの文章を接続詞を使って、二つの文章に分けることに課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字を書く力が定着するよう、部首やつくりなど漢字の意味を理解させ、作文などで活用しながら指導していく。また、似ている漢字について具体的に取り上げ、漢字の意味や使い方を確認していく。 ・接続詞を活用することで、文章が読みやすく、分かりやすくなることを改めて指導し、接続詞の使い方を確認していく。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●複数の情報を読み取り、その関係を整理し、目的に応じた文章に表すことに課題がある。 ●資料に書いてあることを適切に要約する力が不足している。	・調べ学習など、他教科でも複数の資料から情報を集め、整理し文章化していく活動を積み重ね、適切な情報活用能力を高めていく。 ・他教科においても、資料を適切に要約できる力を高めていく。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は市の平均より高い。 ○普段の学習で意味調べを実施し、語句の由来についても継続的に学習していたため、和語、漢語、外来語を区別する問いが正しく理解できていた。	・引き続き、漢字辞典や国語辞典で意味調べを行い、語句の由来にも着目させ、さらに言葉への関心を高めていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○質問の仕方の工夫を選択する問題の正答率は高かった。 ●自分が聞きたいことに対して、話の内容を正しくとらえることができず、その後の記述問題の正答率も低かった。	・普段から目的意識をもって話を聞く態度を育てていく。 ・聞き取りの学習の際は、話の中心や目的など聞き取るべきポイントを明確にしてから取り組ませ、最後に話の理解度を確認しながら指導していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○普段の学習において、テーマを与えた作文指導を重ねてきたため、指定された長さや段落で意見文を書くことができた。 ○自分の意見と理由を明確にして文章を書くことができた児童が多かった。	・これから作文指導を続けていく中で、より相手意識をもたせた文が書けるよう、読みやすい文や段落構成を考えさせながら指導していく。また、意見文においては、反対意見も想定しながら書けるよう指導していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●物語文では、文章の内容を読み取り、登場人物の心情や様子を叙述をもとにとらえることや、物語の感想を共有し、自分の考えを広げることが難しかった。 ●説明文でも、叙述をもとに文章の内容を読み取る問題の正答率が低かった。	・物語文では、叙述を基に登場人物の心情や様子を読み取ることを基本とし指導していく。また、自分なりの感想をもち、学級内で考えを交流をする活動を多く取り入れていく。 ・説明文でも、叙述をもとに正確に読み取れるよう指導していく。また、文章全体の構成を捉えらるとともに、段落相互の関係にも着目させ指導していく。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	46.0	60.5	65.8
	農業や水産業	48.3	63.3	66.0
	工業生産	60.0	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	67.5	83.8	76.6
	日本の政治	66.3	74.9	74.1
	日本の歴史	61.3	66.3	68.3
観点別	知識・技能	59.2	69.3	71.4
	思考・判断・表現	54.3	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

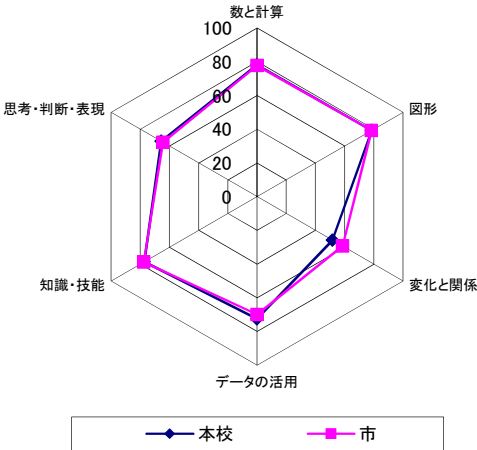
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	平均正答率は、市の平均より低い。 ●日本の主な地形の名称と位置など国土の構成についての理解をもとにし、地図を読み取ることに課題が見られる。 ●季節風についての理解をもとに、太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取ることに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本の主な地形の名称と位置の理解が定着していない児童が見られるため、繰り返し指導し、定着を図る。 ・身の回りの生活や自然、環境に関することについて、自分との関わりを意識させながら指導にあたる。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均より低い。 ●品種改良など米の品質を高める工夫を理解し、日本の主な食糧自給率について折れ線グラフを読み取ることに課題が見られる。 ●輸入などの外国との関わりにおける課題について理解が不十分である。	・統計資料から日本の農水産物の特徴を読み取れるよう、グラフのどこを見るのかポイントを押さえた上で読み取らせることで焦点化を図った授業を展開していく。
工業生産	平均正答率は、市の平均より低い。 ●自動車の製造工程について資料を読み取ることに課題が見られる。 ●自動車の部品を再利用する目的や日本の主な輸出品・輸入品について理解が不十分である。	・統計資料から分かることを文章で理解することに課題が見られることから、資料を読み取り、分かることを発言させたり文章化させて表現したりする学習活動を取り入れていく。 ・複数の統計資料を読み取れるよう、複数の資料を比べ共通点や相違点を見付ける学習を取り入れていく。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均より低い。 ○産業における情報活用について考える問いの平均正答率は、市と同じ程度であった。 ●インターネットの情報の発信や受信についての問いは、インターネットの利用の際に注意しなければならないことの判断が不十分である。	・実生活での知識を取り入れながら、インターネットの仕組みを理解する機会を設ける。
日本の政治	平均正答率は、市の平均より低い。 ○平和主義の基本的な考え方について理解できている。 ●租税の問題では、まとめや図を見て、役割を読み取ることに課題が見られる。	・税に関する用語の理解を深め、実生活にどのように生かされているか具体的に理解できるような課題作りを行ったり、教材を取り上げたりする。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○安土桃山時代や室町時代についての問題は、市の平均正答率を上回っている。 ●人物と行った政策などは結びついてはいるが、時代の背景や流れの把握が不十分である。	・歴史的事象だけでなく、それを背景とした文化も事象と合わせて、理解を進めていく必要がある。その時代の政治的内容と文化的内容の関係性について、視点を明確にしながらかえる経験を積むことができるようにする。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.2	77.7	78.6
	図形	78.5	78.4	74.4
	変化と関係	51.7	58.7	53.0
	データの活用	72.5	69.9	57.2
観点別	知識・技能	77.2	77.5	74.0
	思考・判断・表現	65.7	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

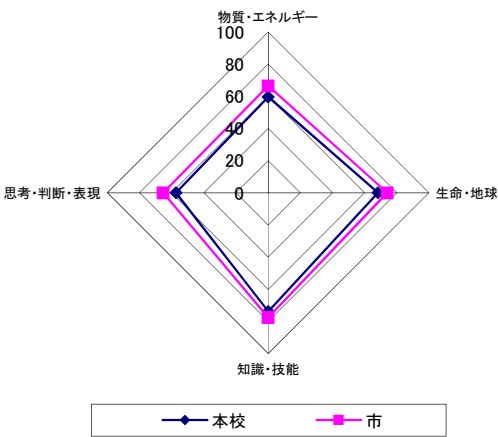
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より高い。 ○計算問題について計算のしかたを理解するまで繰り返し、問題を解かせたため、かけ算、わり算の正答率が高かったと考えられる。 ●問題から立式する際に、文章と図(数直線)を同時に読み取り、答えることに課題がみられた。	・小数や分数の四則計算を朝の学習や宿題等で解かせるとともに、授業の始めに取り入れることで継続して学習をしていく。 ・授業で文章問題から立式する際に、数直線などの図に表して考え、説明する活動を取り入れるようにする。
図形	市の平均正答率と同程度である。 ○面積や体積を求める問題を繰り返し解かせ定着を図ったことで、円の面積や角柱と円柱の体積を正しく求めることができていた。 ●立体の頂点の位置関係や対称な図形の性質についての理解が不十分である。	・四角形や三角形、円の面積、角柱や円柱の体積を求める問題を朝の学習や宿題や授業の始め等に取り入れて、継続的に解かせ理解の定着を図っていく。 ・図形の学習では、具体物やICTを取り入れることで視覚的に図形を捉え、図形の性質について理解が図れるようにする。
変化と関係	市の平均正答率より低い。 ●時速や秒速を分速に直す問題に課題がある。単位変換の意味付けが不十分であったため、理解ができていないと考えられる。 ●割合の求め方の理解が不十分である。問題から基準量と比較量を読み取り、立式する力が定着していなかったと考えられる。	・単位変換の必要性和、換算方法の理解を深めさせていくために、様々な単位変換をする問題に取り組ませる。 ・立式するときにも、単位を意識させることで、単位を揃えることの意識付けを行っていく。 ・公式を再確認して問題を解かせることで理解を深める。 ・割合の定義や、基準量と比較量の割合の関係を再確認し、類似問題に取り組みながら、問題文から必要な情報を読み取る指導をしていく。
データの活用	市の平均正答率より高い。 ○表から平均を求めることができ、平均から全体の量を推測することができている。また、ドットプロットから最頻値や中央値を求めることができています。 ○ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録が一番多いわけではないことを説明することができている。記述問題であっても正しく回答することができている。	・教科書のデータだけでなく、児童の生活に即したデータをグラフや表に置き換え、類似問題として平均値を求めさせたりデータを読み取らせたりすることで、実感を伴った学びにつなげていく。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	59.6	66.5	66.3
	生命・地球	68.3	74.0	72.6
観点別	知識・技能	73.8	77.6	78.2
	思考・判断・表現	57.4	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均より低い。 ○水溶液の性質では、メスシリンダーなどの実験器具の扱いについて十分に理解している。ICT機器も活用しながら、器具の操作について確認をしている成果が表れた。 ●ふりこのきまりでは、振り子の周期の変化についての理解に課題が見られた。実験結果を日常生活と関連して考えられていないと考えられる。	・実験・操作活動を通して、実験を複数回行い、それらの平均を求めることが、より正確な結果を得るために必要な作業であると感じさせる。同時に、振り子の等時性についても捉えさせ、定着させる。
生命・地球	平均正答率は、市の平均より低い。 ○生物と環境では、野生のメダカが食べるものについて十分に理解している。日常から関心をもってメダカの世話をしていた成果であると考えられる。 ●動物の体のつくりと働きでは、消化という言葉への理解が不十分であった。自然の事物・現象について、名前と共に定着することに課題が見られる。	・消化の仕組みを説明する際に、身近な食べ物や食事の例を挙げて説明したり、動物のからだの一般的な構造や消化器官を示す模型や図を使用して、視覚的なイメージをもたせたりして、定着を図る学習を展開していく。

宇都宮市立上河内西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童とともに学びを共有する 単元のカリキュラムマネジメント	主体的に学習に取り組む態度を育てるために、児童が自ら問いをもち、学習の見通しをもつことができる学習計画を立てるようにしてきた。	学習に対する気持ちや態度は、ほとんどの項目で8割が肯定的な回答をしている。特に「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」については肯定的な回答が8割となり、学校平均が昨年度より高くなった。学校全体で共通理解を図り、児童主体の学習計画作りに力を入れてきた結果と考える。
粘り強く学習課題を追究・解決していくための話し合い活動の充実	児童が意見の交流を図りたいと思えるよう単元設計を行い、他者と交流して課題を追究・解決していく場の設定を設けてきた。	「話し合いに進んで参加している」については、8割が肯定的な回答をしている。一方で、「自分の考えを、理由をあげながら話すことができる」については、肯定的な回答が7割であった。話し合い活動の充実を図ることはできたが、意見交換になってしまい、対話による学びにまでは到達していなかったと考えられる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・課題となる内容について、系統性を把握し、全学年で共通理解を図り、授業や朝の学習、家庭学習に意図的に取り入れ定着を図る。
- ・児童が目的意識をもち、計画的に学習したり学習を振り返ったりしながら粘り強く取り組むといった主体的な学びに結びけることができるよう、学習指導の工夫を行っていく。
- ・児童の学習へ向かう気持ちを向上させるために、自主学習で何に取り組んだらよいのか児童が自ら選択できるような具体的な手引きを、発達段階に合わせて見直し作成する。
- ・自分の意見を書く時間を確保したり、ICTなどを活用したりし、児童の実態に合わせて根拠を挙げながら話すことができるようにしていく。